

東京都立 多摩総合医療センター

災害医療と医療安全



立川市医師会
会長 香取 公明

このたび、会長に就任致しました香取です。日頃より地域住民の健康を守る為に、又立川市医師会との連携に積極的に取り組まれていて下さり、大変感謝致します。

先日の地価公示で、立川駅北口は多摩地区で最も地価の高いところになりました。地価が高くなることは人が多く集まることです。立川市は昼間人口が多いところですが、私は開業して20年になりますが、初診患者の住所が徐々に遠方に成っています。人が多く集まると災害が起こりやすくなり、起こると混乱しやすくなります。立川市医師会では災害時に医師会員は何が出来なのかを模索しております。その為に1年前より会長諮問委員会として「災害時医療対策委員会」を立ち上げ、震度5強で発災宣言が出された時にどう行動すべきかを検討しております。自分、自分の家族が一番大事になります。その上での出勤になります。

どこへ、出務するか、そこで何をやるかのマニュアル作りに励んでおります。災害時は慌ててしまうので、一目で今何をすべきかが判るアクションカードの作成も同時並行で進めております。

立川市医師会は一昨年に新会館が完成しました。費用の都合で免震構造には出来ませんでした、震度7でも倒壊しない構造になっております。衛星電話を備え、自家発電設備も停電時には自動的に稼働するようになっております。防災無線で立川市の主要施設とは連絡がつかますが、各会員と緊急医療救護所との連絡には多くのチャンネルを設けるようにしております。

今年、10月より医療事故調査制度が発足致します。予想しない死亡に対する制度ですが、会員には十分周知されておりませんので、まずは周知したいと思っております。しかし、死亡というような重大な事故が起こらないように常日頃から気をつけてゆかなければなりません。その為には日常診療での「ヒヤリハット」となる事態を少しでも改善して減らしてゆきたいと考え、今期より医療安全の専任理事を設けました。会員が安心して医療に専念できるような環境を整えてゆきたいと少しずつ活動を始めております。

2025年には団塊の世代が全員後期高齢者になります。所謂「2025年問題」が迫っており、在宅医療と介護の連携が喫緊の課題となっております。当医師会も担当理事を選出し、立川市との協議に入ろうとしております。これには多職種との連携が大切になってきます。

立川市医師会は医療連携、多職種連携を深めて市民の健康を守ってゆこうとしております。その為にも貴センターの力をお借りしたいと存じます。今後ともご支援よろしくお願い致します。



眼科のご紹介



眼科医長 大野 明子

多摩総合医療センターの眼科に勤務して2年半たちました、大野と申します。鶴岡部長に替わりまして、眼科の紹介をさせていただきます。

眼科外来

眼科外来は月曜日から土曜日で予約制です。幅広く一般眼科に対応しておりますが、斜視外来、ロービジョン外来など専門外来を設け特に力をいれております。また現在は、同じ敷地内の都立神経病院の吉田医師の外来もあり神経眼科領域にも対応しております。難病特定疾患、視覚障害、視覚補装具などの診断書書類作成に対応可能です。公的支援が必要な方には必要十分な情報を提供できるよう心掛け、院内の医療相談係にも眼科担当者がおります。レーザー治療や最近増加している抗VEGF製剤の硝子体注射といった治療は外来で施行しています。眼科の検査では散瞳検査が必要なことが多く、車を運転しての来院は避けていただくようご指導お願いいたします。

眼科手術

施行している手術は白内障が85%と大半を占め、火曜日と木曜日に日帰り、もしくは入院(原則2泊3日)でおこなっています。日帰りか入院かは患者さんとご家族の希望をお聞きして決めています。日帰り手術は手術翌朝の外来受診が必須のため、移動に自信のない方は入院のほうがよく、一方、認知症のある方で入院による環境変化がせん妄などにつながりそうですと日帰りで施行させていただくこともあります。現在、白内障は約6週間待ちとなっております。入院枠の方が早めの手術日となる傾向です。

白内障以外には成人の斜視、網膜復位術、硝子体出血に対する硝子体手術、眼瞼手術などを行っております。

小児の眼科手術は隣接する東京都立小児総合医療センターで行っており、良好な協力体制です。

白内障手術に際しての多焦点レンズ挿入、角膜屈折矯正手術といった現在保険適応のない手術は行っておりません。

平成26年度 眼科手術内訳(レーザー治療を除く)

水晶体再建術(白内障手術)	684件
眼瞼手術	44件
斜視手術	41件
網膜復位術	15件
硝子体手術	12件
結膜手術	9件
緑内障手術	7件
翼状片手術	5件
異物除去手術	4件
その他	4件

ご紹介に際して

たいへん恐れ入りますが、原則として眼科の先生からのご紹介を賜りたいと思います。高齢化に伴い、多くの方が眼疾患をかかえ、また眼科治療の継続が必要な方も多くなっています。眼科かかりつけ医を是非お持ちになるように患者さんにもお話しております。特に近隣の眼科の先生方には、術後の経過観察などもお願いしておりますが、丁寧で臨機応変なご対応に日頃から感謝しております。

急患への対応など行き届かない点が多いと思いますが、眼科の連携医の先生からの連絡には可能な限り対応するようにしております。今後、多摩地域の視覚にかかわる医療レベルの向上に少しでも貢献できるようスタッフ一同努力していきますので、どうぞご協力のほど宜しくお願い申し上げます。





経会陰的ドレナージが奏効した前立腺膿瘍の3例

泌尿器科 渡邊 大仁



当科では、腎、尿管、膀胱、前立腺、尿道などの尿路に関わる臓器、精巣や副腎という生殖や内分泌に関わる臓器に関する疾患を幅広く診療している。今回、前立腺膿瘍という比較的稀な疾患に対し、ドレナージが著効した3例を経験したため報告する。

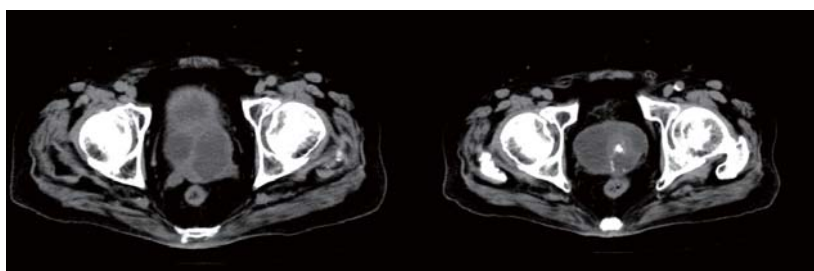
【症例1】38歳男性。主訴は発熱、左陰嚢痛で、前医で抗生剤投与されるも増悪傾向にあり、精査加療目的に当科紹介。既往に糖尿病(HbA1c 8.4%)があり、末期腎不全に対して血液維持透析中であった。

CTで膿瘍を伴う急性前立腺炎と診断し、抗生剤を7日間投与した。軽快したため前医に転院したが、発熱が散発するため当科再受診。前立腺内膿瘍の増悪を認め、ドレナージ目的に緊急入院。脊髄くも膜下麻酔下で前立腺膿瘍ドレナージ術を施行。経直腸エコーを用いて経会陰的に前立腺を穿刺、膿瘍を吸引除去し経皮的腎瘻造設用のカテーテル(8Fr.)を留置、持続ドレナージを開始した。抗生剤投与も継続し、膿瘍の縮小を認めた。

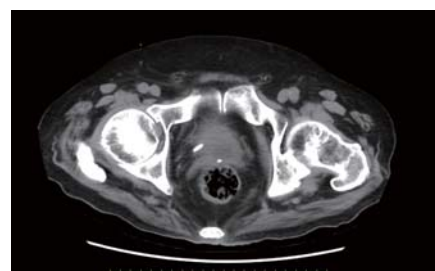
【症例2】76歳男性。主訴は排尿障害、悪寒、発熱で、既往に糖尿病(HbA1c7.1%)尿閉を繰り返す前立腺肥大あり。急性前立腺炎と診断し抗生剤投与開始。しかし発熱は持続し、CTで大きな膿瘍腔を認めたためドレナージ目的に入院。全身麻酔下に症例1と同様にドレナージを行った。抗生剤投与も継続し、膿瘍は消失した。

【症例3】73歳男性。特発性肺線維症の急性増悪に対してステロイドパルス、エンドキサンプルスを実施中に頻尿、排尿時痛出現。改善傾向ないため当科紹介。既往に前立腺肥大症及び糖尿病(HbA1c 10%)あり。排尿障害に伴う細菌性膀胱炎として α 1ブロッカー及び抗生剤投与を開始。しかし改善傾向を認めず、発熱はないものの前立腺炎を疑いCT施行。前立腺内に大きな低吸収領域(図1)を認め前立腺膿瘍と診断し、ドレナージ目的に当科緊急入院。全身麻酔下で症例1と同様に経会陰的ドレナージを行い、尿道カテーテル留置。抗生剤投与継続し、膿瘍の消失(図2)を認めた。

前立腺膿瘍は、抗生剤の出現以降稀な疾患とされており、頻尿や排尿時痛、尿閉といった下部尿路障害に伴う症状が出現することがあるが、非特異的であり診断に苦慮することが多い。前立腺膿瘍の原因には、高齢者に多い下部尿路閉塞に伴う上部尿路感染、あるいは全年齢層にみられる血行性感染がある。また危険因子として免疫抑制状態や易感染性が挙げられる。今回の3症例はいずれも、重度の糖尿病、維持透析、ステロイドパルス療法という免疫抑制状態、易感染性状態があった。抗生剤加療のみではコントロールが難しく、外科的ドレナージ術が必要になることもあるが、前述の如く稀な疾患であり確立された術式がない。近年経直腸エコーガイド下での穿刺吸引を試みるのが推奨されているが適切なデバイスは開発されていない。当科では同様の穿刺吸引を行った上で、経皮的腎瘻造設術に用いるカテーテルを留置して持続ドレナージに使用し、十分な効果を得た。また、これによる有害事象は特に認められなかった。



▲図1



▲図2



【採用】平成27年5月1日付

麻酔科医員

佐藤 玲華

【採用】平成27年7月1日付

呼吸器外科医長

吉川 拓磨

形成外科医長

越智 正和

耳鼻咽喉科医長

井上 亜希

リウマチ膠原病科医長

横川 直人

循環器内科医員

西村 陸弘

産婦人科医員

曾我 江里

産婦人科医員

中村 めぐみ

【退職】平成27年6月30日付

検査科部長

石澤 貢

循環器内科医長

二川 圭介

呼吸器外科医員

宮野 裕

形成外科医員

久保 和之

●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

● 連携医交流会

平成27年9月17日(木) 午後7時～午後9時 講堂フォレスト・職員ラウンジ

会費：4,000円 ※9月3日(木)までに医療連携係までご連絡をお願いいたします。

● 医療連携臨床懇話会

平成27年10月15日(木) 午後7時～午後9時 講堂フォレスト

●「腎疾患患者に対する投薬上の注意」 腎臓内科医長 羽田 学

●「頸部腫瘍の診断から治療」 耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長 中屋 宗雄

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

● 公開C P C 各日とも午後6時～午後7時 4階401会議室

平成27年9月17日(木)、平成27年10月15日(木)、平成27年11月19日(木)

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

● 糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

●「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」

日時：平成27年9月16日(水) 午後2時から午後4時

●「メタボリック・シンドローム」「血液検査について」「動脈硬化と食事」

日時：平成27年10月14日(水) 午後2時から午後4時

●「糖尿病と高血圧」「糖尿病の入院について」「減塩方法の実際」

日時：平成27年11月18日(水) 午後2時から午後4時

● 腎臓病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

日時：平成27年10月27日(火) 午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係(秋山・飯岡 内線2171)まで

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

